

Monthly Report

Vol.176 / 2020.DEC
(月1回発行)

南2連覇、納得の演技で高得点／全日本体操、種目別「床」



優勝報告会后記念写真（左から朴澤理事長、鈴木監督、南、遠藤学長）

体操の全日本選手権（群馬・高崎アリーナ）の男子決勝が12月13日（日）行われ、大学の南一輝（体育3年）が種目別・床運動で15.600（D6.600、E9.000）の高得点をマークして優勝しました。昨年に続く2連覇です。床運動に専念して東京五輪への出場を目指しているだけに、開催年へ向けて大きな弾みとなりそうです。

11日の予選で15.333を出して1位通過した南は、13日の演技でも（G難度の）リ・ジョンソン（後方抱え込み2回宙返り3回ひねり）を見事に決めて高得点を得ました。

なお大会には青木翔汰（体育4年）も出場。個人総合で合計166.431をマークし22位にくい込む健闘を見せました。

<体操競技部>

12月15日（火）本学LC棟で全日本選手権床2連覇を達成した体操競技部 南一輝（体育3年）の優勝報告会が行われました。

コロナ禍で約9か月ぶりの大会となった南は「まずは優勝することができてホッとしています。練習通りの演技をすることができました」と学生や教職員約40名が集まる中、安堵の表情を見せました。

また今後の目標について「東京五輪で金メダルを取る為にこの大学に来て床にしぼりました。まずは来年の国内選考会で東京五輪の出場権を獲得し、東京五輪で金メダルを取って多くの人を笑顔にできるように、これから調整していきたいです」と前を向きました。

同日、柴田町役場へ訪問し、滝口茂柴田町長にも優勝を報告しました。

<目次>

・南2連覇、納得の演技で高得点／全日本体操、種目別「床」	1
・今こそ野外教育の価値を	2
・教職員研修会開催 ・中国瀋陽師範大学「漢語橋」オンライン留学への参加	3
・遠藤が大会新記録を樹立／ウエイトリフティング部 ・遠藤、全日本女子選手権大会で準V／ウエイトリフティング部 ・今シーズン初大会、東北地区3位／軟式野球部	4
・2020年度の介護実習が終了しました ・「宮城県、仙台市、宮城県内9大学等、七十七銀行、仙台銀行及び仙台商工会議所の連携・協力に関する協定」を締結しました	5
・Jリーガー10年連続誕生！井岡海都、バガルト仙台入り ・感謝の「心」で笑顔の演技、新体操発表会	6
・芝草通信 NO. 20	7
・第7回学術講演会を開催 ・「高校スポーツの安全を守る」Vol. 32	8

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学 広報室

直通 0224 - 55 - 1802

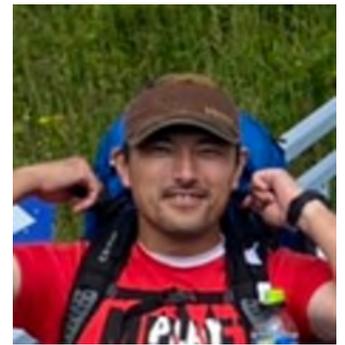
Email kouhou@sendai-u.ac.jp

今こそ野外教育の価値を

体育学部体育学科マネジメントコース 講師 井上 望

私は筑波大学の修士課程を修了した後、今年まで13年間、野外教育を専門として大学教育に携わってきました。様々な大学を渡り歩いて、本年度仙台大学へ着任させていただきました。本稿は私の過去・現在・未来に触れながら、野外教育の価値について考えたいと思います。

さて、皆さんもご存知の通り、新型コロナウイルス感染症が世界中で流行しています。日本では感染予防として「3密」を避けて、ソーシャルディスタンス（フィジカルディスタンス）を保ちつつ、「新しい生活様式」へという考えが主流となりつつあります。そのような状況の中、私が専門とする野外教育（野外活動）の分野では決して小さくない打撃を受けています。民間の野外教育・活動施設ではキャンセルが相次ぎ、経営難になり、社会教育施設（自然の家等）は地域限定の募集による主催事業の縮小や受け入れ自体を取りやめる事を余儀なくされています。大学でも、野外教育に関わる実習系の授業は全国的に見てもほぼ取り止めの状態です。



このように現在の社会情勢と照らし合わせて見ると野外教育は大変厳しい状況にあると考えている方も多いと思いますが、実は好転している状況もあります。それは野外での活動に対する価値やイメージです。民間では、都市部から離れた場所でセラピューティックな意味を込めてキャンプをする人で溢れかえっており、また社会教育施設では日帰りでも宿泊数を少なくしても野外活動をしたいと申し出る団体や学校が後を絶たない状況です。さらに、私が代表を務める仙台大学野外運動研究室が主催しているキャンプ事業でも保護者から「キャンプを今年もやってもらえますよね」、「子供がコロナで遊べなくて本当に楽しみにしています」という声が多く聞かれました。以上からわかるようにコロナ禍によって野外活動の価値やイメージを多くの人が再考し、この社会状況でも「できる活動」として野外活動を認識し始めていると考えられます。

つまり、野外教育・活動へのニーズは通常よりも高まりつつある状況であるため、今までの多くの野外教育・活動が必要となってきます。野外教育はリスクをrejectするのではなく、takeして、managementするという考え方が主流であるため、感染症についても人が集合する以上、リスクは高くなるが、どうmanagementしていくのが重要であり、それをしっかりと指導できる人材育成が急務であると考えています。そういった観点から私のゼミでは今年5月から現在に至るまで、現在のニーズにあった野外教育者を育てるために様々な活動を行ってきました。具体的には野外教育の理論や技術を学ぶ週1回の「勉強会」、指導現場の経験と保護者のニーズに合わせた「デイキャンプ」、部活動を対象とした「アウトドアグループワークトレーニング」、より本格的な野外教育の実践を学ぶための「縦走登山」などであり、どれも感染症のリスクを背負いながら、それでもやる価値を見出して行いました。このような活動を通して、学生たちが成長している姿や保護者の満足そうな様子を見た時はやってよかったなと心から思いました。



本年度のデイキャンプの様子



勉強会：野外救急法の様子



蔵王縦走登山中の講習会の様子

最後に、現在はいつ終息を迎えるのか、いつ予防接種によって安心できる世の中が来るのかは、目処が立っていない状況であり、世の中にウイルスや細菌がある以上、コロナウイルスを抑えたとしても同じような状況になる事も考えられます。その中で野外教育者のみならず、全員が「リスクと共に生きる」という考え方をもち、様々なリスクをマネジメントしながら生活、活動するようになって欲しいと思います。

教職員研修会開催

12月1日（火）、仙台大学学生相談室・修学サポート委員会の共催で教職員研修会を開催しました。今回はコロナ禍の中、感染症拡大防止のために初めてオンライン形式をとりました。開催形式は例年と異なりましたが、参加者は例年の2倍ほど、約60名となりました。

今年の研修会には、東京大学相談支援研究開発センター学生相談所 所長の高野明准教授を講師に招き、「コロナ禍での学生の悩みと相談支援について」と題し、未曾有のコロナ禍での学生の不安・悩みや、東京大学での学生相談の実際、学生相談の際の留意点等についてご講演いただきました。このコロナ禍の状況で、学生の不安や悩みを学年別、時系列（今春～今秋にかけての変化）で分析し、大学や社会がコロナへの対応を変化させていく中で、学生の心の内も複雑に変化していく実態も明らかにしていただきました。今後もキャンパスの再開とともに学生の悩みもまた変化していくであろうし、コロナ感染拡大の長期化とともにウィズコロナ、アフターコロナに対応した学生支援が必要なのだとも先生は説いており、東京大学での学生相談実務の frontline に立っていらっしゃる先生ならではの深い知見をご教授いただきました。今回の内容を今後の本学の学生支援対応に活かしながら、コロナに負けることなくいきいきとした学生生活を送ってもらえるよう、知恵を出すことが我々教職員に課された課題であると改めて感じました。

今回のテーマは非常に今の感染状況に合ったものであり、本学教職員にとって興味関心の高かったこともあり、質疑では担任として学生との関わり、相談室への連携方法、心理的な葛藤への対応、教職員のメンタルサポート、相談しやすい場づくりなど多岐な質問がありました。高野先生からは、教職員が対応方法について早期に学生相談室と相談すること、学生の心理変化を見守っていくこと、教職員は体調に留意しハッピーに過ごすこと、学習以外でのオンラインを活用した場づくりなど、気さくにご回答頂きました。遠隔での研修会でしたが、非常にライブ感のあるものとなり、最後は予定時刻を少し超過しながら後ろ髪をひかれる思いで閉会しました。

<報告：学生相談室・修学サポート委員会>



オンライン研修会の画面より

中国瀋陽師範大学「漢語橋」オンライン留学への参加

瀋陽師範大学によるオンライン留学体験「漢語橋」に本学よりベラルーシ親善大使として招へいしているセベツ・アリーナさんを含めた17名が参加しました。

オンライン留学プログラムは12月1日～12月15日に行われ、中国語、中国武術、京劇、茶道、伝統切り絵およびオンライン観光など、多彩なプログラムが組まれており、アメリカ、ロシア、インドネシアなど12ヶ国から318名が参加しました。

プログラムに参加した鶴田宇宙さん（体育3年）は「中国語の勉強だけでなく、文化についても学ぶことができました。特に中国武術と書道に感銘を受けました。もっと中国語を勉強して、本場の小籠包や餃子を食べたり、中国の広大な自然や歴史的建造物を見たいです」と感想を話してくれました。

本学と協定校の瀋陽師範大学は、毎年本学から多数の学生が現地で短期留学を実施していますが、今年はコロナ禍の影響で中国を含めた海外留学の中止が余儀なくされ、多くの学生が海外の異文化に触れる機会が少なくなりました。

今回のようなオンラインによる留学体験は、異国での生活体験が実際にはできないものの、海外の文化を知る、言語学習のモチベーションアップ、また渡航費が抑えられるなど多くのメリットがあります。今後は留学を希望する学生のニーズに応じた新しい形「オンライン留学」と「リアル留学」との組み合わせが、今後の国際交流・学生教育を推進するうえで必要な取組だと感じました。



中国民族楽器鑑賞



中国茶道



中国語レッスン



鶴田宇宙さん（体育3年）

<報告：馬佳濛准教授>

遠藤が大会新記録を樹立／ウエイトリフティング部

ウエイトリフティング部の遠藤朱李（体育3年）が12月5・6日に福岡県北九州市・浅生スポーツセンターで行われた令和2年度第66回全日本大学対抗ウエイトリフティング選手権大会（女子）のスナッチ競技で大会新記録を樹立しました。

今年度最後となった今大会は5名が出場し、新型コロナウイルスの影響で練習時間の確保が難しい中、選手たちは精一杯戦いました。

試合結果は以下の通り

○59kg級

佐藤愛香(体育2年) スナッチ6位 クリーン&ジャーク 8位 トータル 8位

瀬戸櫻子(体育1年) スナッチ13位 クリーン&ジャーク 14位 トータル13位

○64kg級

高橋凜(体育2年) スナッチ5位 クリーン&ジャーク5位 トータル5位

○81kg級

福塚真羽(体育4年) スナッチ6位

○87kg級

遠藤朱李(体育3年) スナッチ優勝(大会新記録) クリーン&ジャーク2位 トータル2位

団体 8位

<報告：ウエイトリフティング部>



遠藤、全日本女子選手権大会で準V／ウエイトリフティング部

ウエイトリフティング部の遠藤朱李（体育2年）が12月11日～13日に新潟県ニューグリーンピア津南で開催された第34回全日本女子ウエイトリフティング選手権大会で準優勝しました。

今大会は、各階級ごとに指定された基準記録を超える選手が出場する、日本のウエイトリフティング界において最も名誉ある大会です。

オリンピックの代表選考を兼ねた今大会、緊迫した状況の中でも実力を発揮しました。

結果は次の通り

87kg級 遠藤朱李(体育2年)

スナッチ準優勝 クリーン&ジャーク準優勝 トータル準優勝

<報告：ウエイトリフティング部>



表彰台に上がった遠藤（写真左）

今シーズン初大会、東北地区3位／軟式野球部

軟式野球部は10月下旬に開催された「ゼット杯大学軟式野球大会東北王座決定戦」（岩手県北上市・岩崎野球場）に臨み、惜しくも優勝を逃して「同率3位」でした。

この大会は本学の学生たちが中心となって開催。軟式野球部の選手たちもその労に花を添えようと奮闘しましたが、予選大会「準優勝」の勢いを決勝トーナメントにうまく持ち込めませんでした。来季に向けて精進したいと思います。

<報告：軟式野球部>



2020年度の介護実習が終了しました



介護実習Ⅲ終了時の集合写真



22日目 施設長からの講義

今年度、健康福祉学科介護福祉士養成課程では、12月4日にすべての実習が滞りなく終了しました。

本来は、5月に3年生対象の介護実習Ⅱ（23日間）、8～9月に2年生対象の介護実習Ⅰ（12日間）、9月に3年生対象の介護実習Ⅲを予定しておりましたが、コロナウイルスの感染防止の観点から日程を繰り下げたほか、学内実習にすべて変更しました。

学内実習での学びは果たして得られるのか、学生も教員も不安が大きかったところですが、学生全員に貸与されているiPad（iPad with Wi-Fi + Cellularモデル通信費込み）を用いた施設の理解や介護過程の展開について、実習施設指導者との綿密な打ち合わせにより実現できました。また、学内でもグループワークや応用的な生活支援技術など様々なプログラムを学生に提供することができました。

11月9日から23日間にわたり実施した介護実習Ⅲでは、「あつという間だった」「終末期の介護支援について理解が深まった」「夜勤実習では多くの学びが得られた」など学生から深い学びが得られたとの意見が多く挙げられました。

コロナ禍の状況で、感染症対策をとりつつ決死の覚悟で学内実習を実施する判断を致しましたが、実習にご協力いただきました実習施設の皆様に支えて頂き、無事に実習を終了することが出来ました。この場をお借りして深く感謝申し上げます。

今回の学内実習（遠隔実習含む）において得られた学生の体験と学びは貴重なものです。本学は社会のニーズに応えることのできる介護福祉士を養成してまいります。

<報告：健康福祉学科>

「宮城県、仙台市、宮城県内9大学等、七十七銀行、仙台銀行及び仙台商工会議所の連携・協力に関する協定」を締結しました

12月21日（月）仙台国際ホテルで本学を含む14の事業協働機関による産官学連携協定を締結しました。

本協定締結で今後、事業協働機関が手を取り合い、話し合い、創意工夫しながら地域社会が発展する取り組みを積み重ねる予定です。

この協定締結にあたり遠藤信哉宮城県副知事は「本協定では、これまで取り組んでまいりましたCOC+事業に引き続き、新卒者の県内就職率向上や雇用創出に取り組むこととしており、富県躍進を支える人づくりの推進に向けて県としても大いに期待し、皆様と連携・協力を一層図ってまいりたいと考えております」と語られ、郡和子仙台市長は「仙台市では、これまで5年間に134人の学生記者さんに地元企業160社の取材していただくWISE事業に取り組んできた他、地元就職を考えるフォーラムの開催など、地元企業の魅力発信と学生と企業が交流する機会の創出を行ってきました。今回の協定締結を契機に若者がこの地に定着する、あるいはこの地を選ば環境整備により一層努めてまいりたいと考えております」と、産官学連携による人材育成、地方創生の可能性へ期待のお言葉をいただきました。

コロナ禍での締結式でしたが、関係機関より対面方式の開催について多数の賛成意見を受け、代表者が一堂に会しての協定締結式を開催することとなりました。

協定締結式出席者：

宮城県、仙台市、仙台商工会議所、**仙台大学**、東北学院大学、尚絅学院大学、聖和学園短期大学、仙台白百合女子大学、東北生活文化大学・同短期大学部、宮城学院女子大学、仙台高等専門学校、株式会社七十七銀行、株式会社仙台銀行

<報告：スポーツ健康科学研究実践機構>



Jリーガー10年連続誕生！井岡海都、ベガルタ仙台入り

本学サッカー部GK井岡海都がベガルタ仙台に入団が内定しました。
これで本学サッカー部は10年連続でJリーガー誕生となります。

井岡海都 (KAITO IOKA/GK)

- 生年月日：1998年4月27日（22歳）
- 身長／体重：186cm/79kg
- 出身地：千葉県

○チーム歴

- 2007-2010 HAMANO JFC（千葉市立生浜西小学校）
- 2011-2013 千葉SC U-15（千葉市立生浜中学校）
- 2014-2016 船橋市立船橋高等学校
- 2017-2020 仙台大学

○選抜歴

- 2018 東北選抜（デンソーカップ）
- 2020 東北選抜（デンソーカップ）

○特徴

1対1の局面で迫力を出しゴールを守る。相手の隙を狙い前線へのフィードで攻撃のチャンスをつくる。

○井岡海都のコメント

来季からベガルタ仙台に加入することになりました、井岡海都です。
幼い頃から夢であったプロサッカー選手のキャリアを、この歴史ある素晴らしいクラブでスタートできる事を大変嬉しく思います。
これまで自分に関わる全ての方々への感謝の気持ちを忘れずに、少しでも早くチームに貢献し、多くのファン・サポーターから愛される選手になれるように頑張ります。
ベガルタ仙台のファン・サポーターの皆様、よろしくお願いします。



感謝の「心」で笑顔の演技、新体操発表会

第25回仙台大学新体操演技発表会は12月20日（日）、白石市のホワイトキューブで行われました。
新型コロナウイルスの感染拡大の影響で各部活動は発表の場が限られているなかでの開催です。
観客を関係者と事前申請者に限定しながらも、賛助出演していただいた他団体の選手たちを含めて精いっぱい笑顔の演技ができました。
発表会には本学をはじめ青森山田高校、宮城県内の新体操クラブの子どもたちなど51人が参加し、いずれも優雅な演技で会場を沸かせました。
今年は新型コロナの流行で発表会開催すら危ぶまれましたが、新体操競技部と男子新体操競技部の面々は何とか練習できている現状に感謝する意味から、この発表会のテーマを「心」としました。
心込めた演技で感謝の気持ちを届けることができたのではないかと考えております。

本学以外で発表会に出演いただいた方々（順不同）

- キューブ新体操クラブOBの皆さん
- キューブ新体操クラブの皆さん
- 華舞翔新体操倶楽部の皆さん
- 青森山田高校新体操部の皆さん
- 仙台ジュニア体育研究所の皆さん
- ADORE RG仙台的皆さん
- カワイ新体操クラブの皆さん
- Tweedia RGの皆さん

<新体操競技部>



1月の芝生管理について

噴水周りの高麗芝生（暖地型日本芝生）と第二グラウンドバミューダグラス（暖地型洋芝）は葉が枯れ葉色となり生育が止まっています。第二グラウンドの寒地型洋芝（南側はトールフェスク＋北側はペレニユアルライグラス）は、気温の低下とともに生育が鈍ってきます。

1月から12月までの月間維持管理については、Monthly Report Vol.164/2019.DEC から毎月掲載したのでバックナンバーを参照してください。

1. 噴水周りの除草剤散布について

12月中旬に実施した雑草管理について「雑草と除草剤の定義」を解説します。

「雑草の定義」：人間の活動圏において、さまざまな人為的攪乱に適応して生活する植物群の中で、人間の活動に負の影響を与える植物群

「除草剤の定義」：化学的防除のツールであり、植物の生育を調節・抑制あるいは枯殺するか、正常な成育過程を攪乱する働きをする化学物質群

雑草管理とは：雑草の予防と防除を総合的に行いながら、長期にわたって雑草によって生じる問題を排除する事です。

すぐに除草剤散布というような直接的な手段のみを想定せずに、雑草の発生や生育を低レベルに抑える様々な手段を総合的に活用することによって最高の結果が得られます。

参考文献：芝草管理技術者研修テキスト第13回3級（発行、日本芝草研究開発機構）

春先に沢山繁茂したスズメノカタビラは夏の高温で衰退しましたが、多くの種子が既に土壤に落ちています。土壤中で発芽中の雑草種子を枯殺する土壤処理剤（ウエイアップ）と、広葉雑草や寒地型芝生の茎葉からの吸収によって生育中の雑草を枯殺する茎葉処理剤（シバゲン）の2種類の除草剤を混合して散布しました。1回の処理だけではなかなか駆除できないと思いますが、春先に状況が改善されていることを期待しています。



写真1 噴水周りBブロック（三体前）に繁茂したスズメノカタビラ。暑さで枯死したがその前に大量の種子が土壤中に落下したとみられる。

（12月22日記）

第7回学術講演会を開催

12月16日（水）16：00から「第7回学術講演会」をオンラインで開催しました。

今年度は日本の保育の質向上に多大な貢献をされている子ども運動教育学科 大宮勇雄先生を講師にお迎えして「複雑で予測できない学びをどのようにして捉え育てるか—人間的で個性的な育ちを守るために—」をテーマに講演いただきました。

初のオンライン開催となった今回の講演会には、本学教職員や学生のみならず、県内のほか関東や九州など全国の保育関係の先生方や保育園の園長先生、自治体の教育委員会など多くの方々に視聴いただきました。

子どもの視線にたち、会話などのやり取りする中で「子どもが何を学んでいるか」を想像し、変革するチカラの育ちを意味付け、次の見通しを語り合う「ナラティブ・アセスメント」について事例を通してしながらご説明いただきました。子どもの人間的な学びとは何か？を考えさせられる講演会となりました。

<報告：学術会事務室>

川平キャンパスAT・S&Cレポート

「高校スポーツの安全を守る」 Vol. 32

担当：今野 桜 助手

2020年も残すところあと数日となりました。今年は新型コロナウイルスの影響で例年とは全く違った生活様式の中で、感染症対策をしながら生徒たちが安全に部活動をできるようにサポートしてきました。

12月上旬に仙台大学附属明成高校（以下、仙台大明成）主催の救急法の講習会が行われました。仙台市荒巻消防署の方を講師としてお招きし、川平ATRからもATの2人が補助として参加させていただきました。今回は感染症対策もあり仙台大明成教職員の限られた人数での講習会となりましたが、参加者は事前にオンラインでの講習を受け、講習会では実技を中心に行いました。参加者の中には胸骨圧迫やAEDを使うのは初めてという方もいて、講習会後は「救急法講習会を通して教職員だけでなく生徒も含めて全員に必要な知識だと感じた。」という感想も頂きました。私達川平ATRでは「学校スポーツの安全を守る」をスローガンに掲げて活動していますが、救急法はスポーツをしている・していないに関わらず、生徒や教職員の方々全員が安全・安心に生活するためにとっても大切なことです。今後こういった命を守るための正しい知識が学校に関わる人全員の共通理解となり、学校全体が一つでも多くの命を救える環境にしていきたいと思えます。

2021年も今年のように油断できない日々が続くことが予想されますが、コロナ禍でも生徒一人一人が安心してスポーツを楽しめる環境づくりに励んで参ります。

